

東和作戦会議 会報 No.53

令和8年10月25日発行
一般社団法人 東和作戦会議



〒028-0114
岩手県花巻市東和町土沢 5 区 372
電話:0198-29-6500 FAX:
0198-29-6501
メール:
omoshiro@leaf.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://touwa-noutabi.com/>
広報担当 多田悦子

ヒアリング調査に協力

9月8日(火)13:00 東和総合支所

県南広域振興局と岩手県立大学との共同研究(地域協働研究)において移住者や関係人口に対する地域住民側の認知及び協働に対する態度を明らかにするための調査・分析に係るヒアリング調査に対応。

移住者への支援について受入側(地域)の立場から、人口減少への不安や、移住者に対しての両側面に関する情報、受け入れ住民の変化などについて聞きたいとの意向に沿いフリートーク。



★田舎は警戒心が強かったり閉鎖的と言われるが、東和は昔から国際交流や姉妹都市交流など交流が盛んな地域 ★作戦会議では、区長を通し地域に紹介。出だしを間違いなくやればスムーズに地域に入れる。★移住者が地域で活躍している例もたくさんある。★不動産屋から買ってそのまま移住したケースでは、挨拶もなかったり、地域のルールを守らない(知らない)などトラブルになることがある。★二拠点生活や転勤など、住所移転しない場合は自治体にも情報がない。★1件でもよくない事例があると「だから移住者は…」と言われてしまう。★理想を持って移住した方と地域住民との間にはかなりの乖離がある。

→移住相談を受ける時にはいいことばかり言わないようにしている。

いい事例ばかりを取り上げるメディアの責任もあると感じる。

★実家で暮らす息子なども地域と関わりを持たないケースが増えており、移住者と同じだという意見も。移住者の受入という外向きの問題以外に、地域が維持継承されていないという内向きの問題がある(世代間ギャップや若者支援・教育／地域が元気でないとウェルカムとも言えない)。 報告:岡田芳美



《セット内容》

- 特別栽培米 3 合
- 産土みそ ●りんご(赤2黄1)
- りんご酢(150 ml) ●椿油18g
- 河東の誉 330 ml
- 佐々長みそかりんとう

第 1 回事業検討会

9月9日(水)18:00 東和コミュニティセンター

事業進捗状況報告、おもしろ学事業について、東和農旅セット 2026 について、今後のイベントについて以上 4 件について検討。

★東和弁保存研究室を発足。東和弁の保存、活用方法、普及活動について検討。当面ミニパンフレット「すぐに使える東和弁」を作成し、土澤アートクラフトフェアでの配布、道の駅とうわなどに設置する。

★東和農旅セット 2026

東和の物産7点 100 セットを用意

1 セット 4,000 円

10 月 19 日から 11 月 13 日まで予約販売。

11 月 21 日(土)9 時から梱包発送作業実施



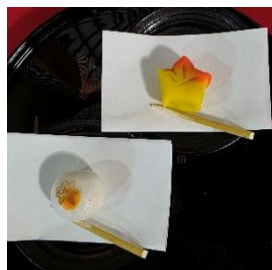
土澤アートクラフトフェア 2026 秋

恒例 東和作戦会議 街道の茶店オープン 10月11日(日)12日(月・祝)

秋晴れに恵まれ、連日、人の波がおしよせたアートクラフトフェア。2日間で155,000人！(主催者発表)とのこと。お休み処「街道の茶店」にもたくさんの方々がおいでになりました。



玉川屋製の和菓子を抹茶と共に味わっていただく抹茶席にも、常連のお客様が続々とおいでになりました。口開け一番においでいただいた方から、「毎回来ています。まず、抹茶をいただいてから出発します」と嬉しいお言葉をいただきました。



喫茶コーナーのテーブル席は、常に空くことなく、地域おこし協力隊中村夫妻の「イチジククラフトコーラ」や、東和産リンゴジュース、シソジュース、珈琲ホット・アイスの注文に、スタッフは大わらわ。木工細工のコーナーでは子どもたちが手作りおもちゃに興味津々。



小原市長ご夫妻、ご来店ありがとうございました。



以前体験学習で訪れた県立大の下谷地さん。就職内定報告に来てくれました。
おめでとう



12日、県立大学の学生6名の皆さんが、役重先生の引率で、体験学習に訪れました。アンケート調査や、作戦会議のスタッフとして活躍いただきました。
ありがとうございました。

雨にも負けない、東和のおもてなし

～「東和棚田のんびり Run」で心も体も大満足！～

黄金色に輝く棚田と、地域の人々の温かさに出会う「第 8 回東和棚田のんびり Run」が 9 月 20 日(日)開催されました。あいにくの雨となった当日、県内外から集まった 271 人のランナーが、秋の東和の自然や歴史、地元ならではの味覚を楽しみながら、のんびりゆったり快走しました。



(1)つたの輪「しそジュース」 (2)つくし工房「がんづき」 (3)農産「塩こうじ漬け」 (4)道の駅とうわ「みそソフト」



→
昨
年
の
画
像

(5)谷内伝承工房館
「みょうが葉焼き」



(6)なんぶ平野農園
「りんごジュース」



(7)おでつ工房「コッペパン」
※後日届いた画像！



(8)ファーマーファーマー
「リンゴ酢炭酸ゼリー」



東和温泉をスタート・ゴール地点として、のんびりハーフ(21.6Km)、親子ショート(4.6Km)、シニア(4.6Km)の各部門で実施されました。コース途中の各エイドには、地域の食の魅力(こびり)がランナーを迎えました。

雨の中でも、沿道からは温かな声援が送られ、各エイドではスタッフが笑顔でランナーをサポートしました。

ゴールでは、実行委員会のメンバーや東和中学校の生徒たちが拍手で出迎え、金管バンドの演奏も完走者を祝福しました。走り終えた後には、東和温泉で疲れを癒やし、神楽の鑑賞や地元のお酒などを楽しむ時間も設けられました。

今回も東和中の 3 年生(約 50 人)は「東和創造学」の一環として、事前準備や受付、ガイドランナー、エイド、ゴールでの応援などに参加しました。生徒たちの活躍は、ランナーの心にも深く刻まれました。



東和中卒業生の勝山想太さん(高1)が「東和で出会ったありがとうを届けよう！」(おもてなしのお返事募集中)というアンケートを行いました。回答者 14 人の総合満足度は 5 点満点中 4.79 点。「家族や友人に勧めたい・また来たい」と答えた人は 100%に上りました。心に残った魅力の第 1 位は「東和中生の笑顔と元気なサポート」で、回答者の 71.4%が選択。棚田の景観や特産品だけでなく、人とのふれあいこそが本イベントの大きな魅力であることが伺えました。

結論
なぜ東和町のイベントは続いているのか

- ・棚田ランが東和の地域の人たちに**非常に愛されていること**
- ・**気軽に参加しやすいイベント**であること
- ・や協力 **温かい地域の人たちの前向きな姿勢**
- ・地域の人を **巻き込む力**がある大きなイベントであること

「雨の中、温かい声援に励まされ、最後まで走りきれた」「景色の良さ、歴史に触れられる楽しさ、おいしさ、温かさ、本当にほっこりする大会です」。参加者からは、地域の人々への感謝の声が寄せられました。10 月 16 日(金)には、東和中 3 年生の「東和創造学」まとめ発表会がありました。実行委員会のメンバー 6 人が参観し、11 グループの発表を聞いたり、生徒たちと意見交換したりする等、有意義なひと時になりました。

上の資料は、発表資料の一部です。地域の一員として確かに育っていることが伝わってきます。

2018 年に始まった本イベントは、地域住民の「地元でマラソン大会をやってみよう」という思いから生まれました。地域の自然や食、歴史、文化を生かし、住民や学校、関係団体が力を合わせて育ててきた取り組みです。

東和棚田のんびり Run を通して生まれるのは、記録や順位ではありません。地域の人々とランナーがつながり、参加した子どもたちが地元の魅力を再発見し、遠方から訪れた人が「また東和に帰ってきたい」と思う場所になっています。雨の日にも変わらなかった笑顔とおもてなしが、東和のさらなる魅力をつくっているのです。これからも地域の誇りと、人と人とのつながりを育んでいくことでしょう。(レポート:広報部小田美香子)

「慶応義塾大学 SFC 研究所地域おこし研究機構 合同研究会」東和で開催

10月7日～10日 フォルクローロ花巻東和と総合支所会議室
土沢市街地

花巻市定住推進課で担当している、全国の自治体職員等の地域おこし研究会が、10月7日から10日まで東和町で行われました。研究所生が集合し、合同でグループワークをし、ふるさと住民構想について考えることを目的に行われたもので

- ①花巻市の状況説明
- ②雨風太陽 代表取締役社長 高橋博之氏を講師に「ふるさと住民制度について」講演が行われたほか
- ③ふるさと住民制度に関するワークショップ。
- ④ふるさと住民構想の発表などが行われました。

最終日に、土沢まち歩きツアーをオプションで提案したところ、なんと参加者の半分以上の22名もの希望者があり、菅野・大石の2名で二班に分かれて、まち歩きを楽しんでいただきました。

賢治の詩碑、佐々長醸造、猿舘酒店、佐藤菓子舗（おやつに東和焼きをプレゼント）の見学。宮沢賢治生誕130年企画展を開催中の萬記念美術館に立ち寄り、舘山からの眺望をご覧いただき、こっぼら土澤、土沢駅と、2時間の行程で一緒に歩きました。その後は、ワンディシェフの店や思い思いのところで昼食をとり12時30分には東和町を離れ、帰途についたということです。

まさに地域創生に関わる生え抜きの職員さん達を相手に緊張しましたが、皆さんからは、「東和の魅力について理解を深めることができた。」「東和は開放的でおもしろい」「東和の取り組みは素晴らしい」などのご感想をいただきました。また、市の担当者からは、地域の魅力を発信することの大切さを再認識した、とのお声もいただき、とても嬉しいツアーガイドでした。

レポート:大石文子・菅野和



「東和農旅セット
2026」予約受付を
11月13日まで行
っています。
詳細はホームペー
ジでご確認を！